

交通の要衝の概念に端を発する交流の多様性が 地域構造に与えた影響に関する研究

A study on the influence of the exchange diversity on the regional structure, which originates from the concept of strategic transportation point

波床 正敏 (HATOKO Masatoshi)

「交通の要衝」という言葉がある。例えば...この地は古来より交通の要衝とされ、地域の中心として発達してきた...といった使われ方であるが、賑やかそうな印象を文学的に表現しただけのように見える。だがそのような地域は長年にわたって周囲よりも繁栄の程度が高く、また長期維持していることが多いと思われる。つまり「交通の要衝」には何らかの注目に値する特徴があり、その特徴を捉えて交通整備や地域整備をすることは、地域の持続的発展に寄与する可能性が高く、今後のインフラ整備の基本方針に影響を与えるかもしれない。予想される特徴としては交流の多様性が関係しているのではないと思われるが、交流の多様性に関する研究は皆無のようである。

そこで交通の要衝の地域的な特徴を明らかにするとともに、交流の多様さの影響に関する長期的視点の分析を実施することとした。だが、全体の実施には複数年を要するため、単年度分の課題として本研究では交通の要衝に着目して各種文献をテキストマイニングによって定性的な構造分析を行うこととした。

まず、「交通の要衝」が含まれている地域を説明した記述の収集作業を行い、次に、これを解析してどのような場所を要衝と認識しているか確認する。そして、状況を資料類によって確認し、関係性を分析することとした。

データとしては地誌なども考えられるが、分析の容易さを考慮して全国全市町村役場（約 1,700）および全都道府県庁の web サイトにおける自地域に関する記述を集めることとした。まず、Python で記述したプログラムによって全国全市町村役所および全都道府県庁の公式 web サイトの URL を自動収集し、収集した URL をもとに公式 web サイトの内容を丸ごとダウンロードした。また、公式記述以外にも交通の要衝に関する記述が存在することや平成の大合併以前の旧市町村名（約 1,800）で「交通の要衝」が認識されている可能性を考慮し、Google 上で旧市町村名を含む全市町村名と「交通の要衝」の両方をキーワードとした場合の検索結果として示されるサイトの URL を自動収集するプログラムを作成し、収集した URL をもとに web サイトの内容をダウンロードした。

これらの情報収集はテキストによる記述を中心とし、自動的な分析が困難である画像や動画等は除いた。情報収集対象となるサーバに負荷がかからないように帯域制限しながら実施したため、前者（官庁の web）のデータ収集には概ね 3 ヶ月を要し、総容量は約 7.3TB となった。また、後者（キーワードに基づく検索結果）についても概ね 3 ヶ月を要し、総容量は約 1.6TB となった。

データ量が当初予想以上に多くなってしまったため、データのコピーや移動だけで数日を要する状況に陥っており、分析結果が出そろうまでにはまだ幾分の時間を要する状況にある。完了次第、何らかの方法で公表の予定である。